

# 木材需給動向について (全国)

2022年8月  
林野庁

全国の木材需給動向について、  
林野庁ウェブサイト（下記URL）にて  
毎月資料を更新しています。  
[https://www.rinya.maff.go.jp/j/mokusan/r  
yutsu/kyougikai.html](https://www.rinya.maff.go.jp/j/mokusan/r<br/>yutsu/kyougikai.html)  
（QRコードからもアクセスできます。）



さらに・・・

林産物に関するマンスリーレポート「モクレポ」  
木材・木材製品、特用林産に関する最新の統計  
データや、林野庁の施策に関するトピックス、セ  
ミナー・イベントの情報などを取りまとめ、毎月  
中旬に更新しています。  
[https://www.rinya.maff.go.jp/j/kikaku/toukei  
/monthlyreport.html](https://www.rinya.maff.go.jp/j/kikaku/toukei<br/>/monthlyreport.html)



# 目次

---

## 1 価格の動向

### (1) 原木価格（原木市場・共販所）

ア スギ（全国）

イ ヒノキ（全国）

### (2) 製品価格

## 2 工場の原木等の入荷、製品の生産等の動向

(1) 製材（全国）

(2) 合板（全国）

(3) チップ（全国）

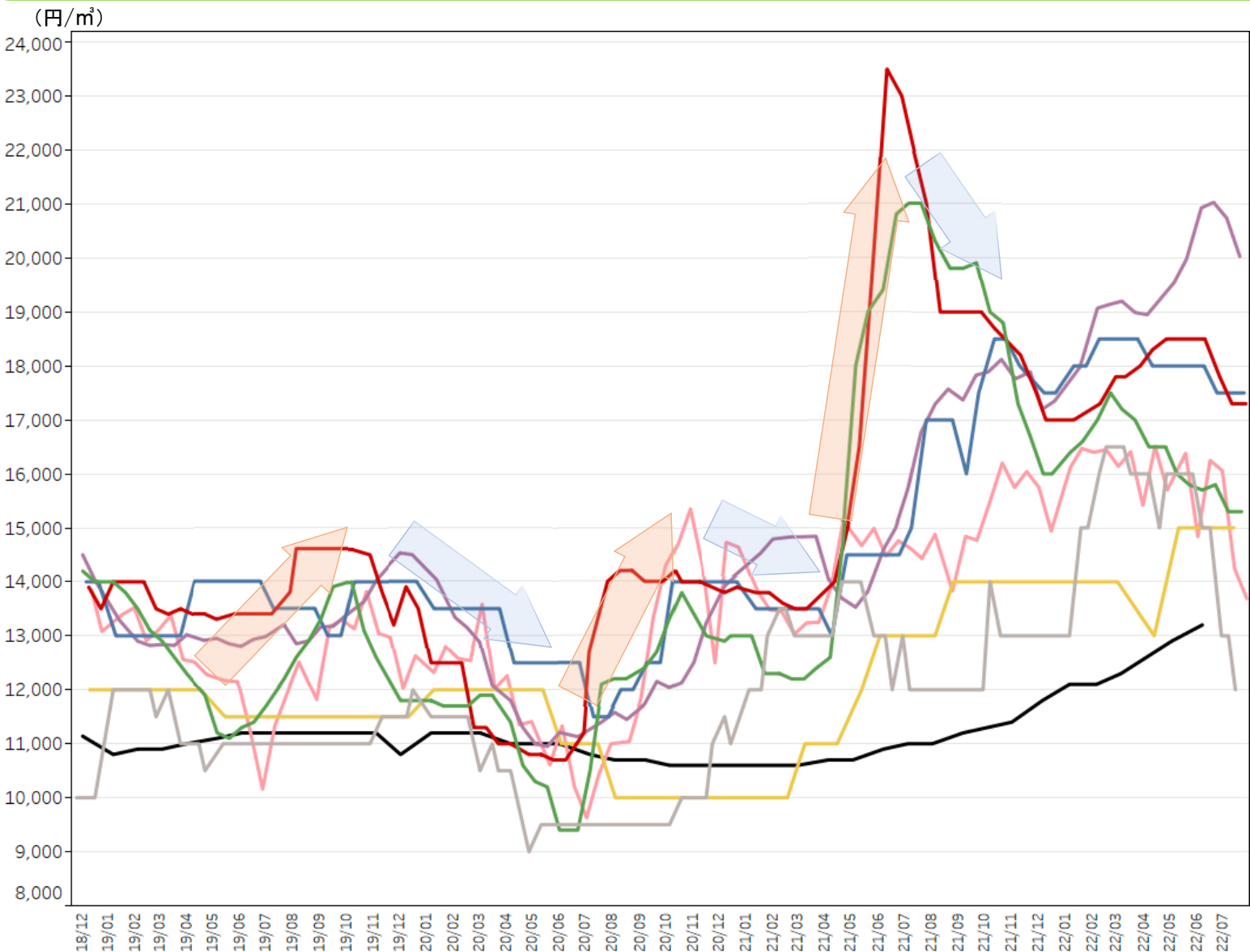
## 3 住宅着工戸数の動向

## 4 木材輸出量

# 1 価格の動向 (1) 原木価格 (原木市場・共販所)

## ア スギ (全国) 径24cm程度、長3.65~4.0m (2018年12月~)

- 2021年4月以降、いわゆるウッドショックにより価格が大きく上昇し、その後一部の地域で下落したが、全般的には、2021年3月以前と比較すると高い水準で推移。
- 直近のスギ原木価格は、12,000円~20,030円となっている。



(単位：円)

都道府県	2022年直近*	前年同期	前年同期比
北海道	13,200	10,900	121%
秋田県	20,030	16,770	119%
栃木県	13,690	14,620	94%
長野県	15,000	13,000	115%
岡山県	12,000	12,000	100%
高知県	17,500	17,000	103%
熊本県	17,300	21,000	82%
宮崎県	15,300	21,000	73%

※北海道については6月、秋田県、栃木県、長野県、岡山県、高知県、熊本県及び宮崎県については7月の値を使用。

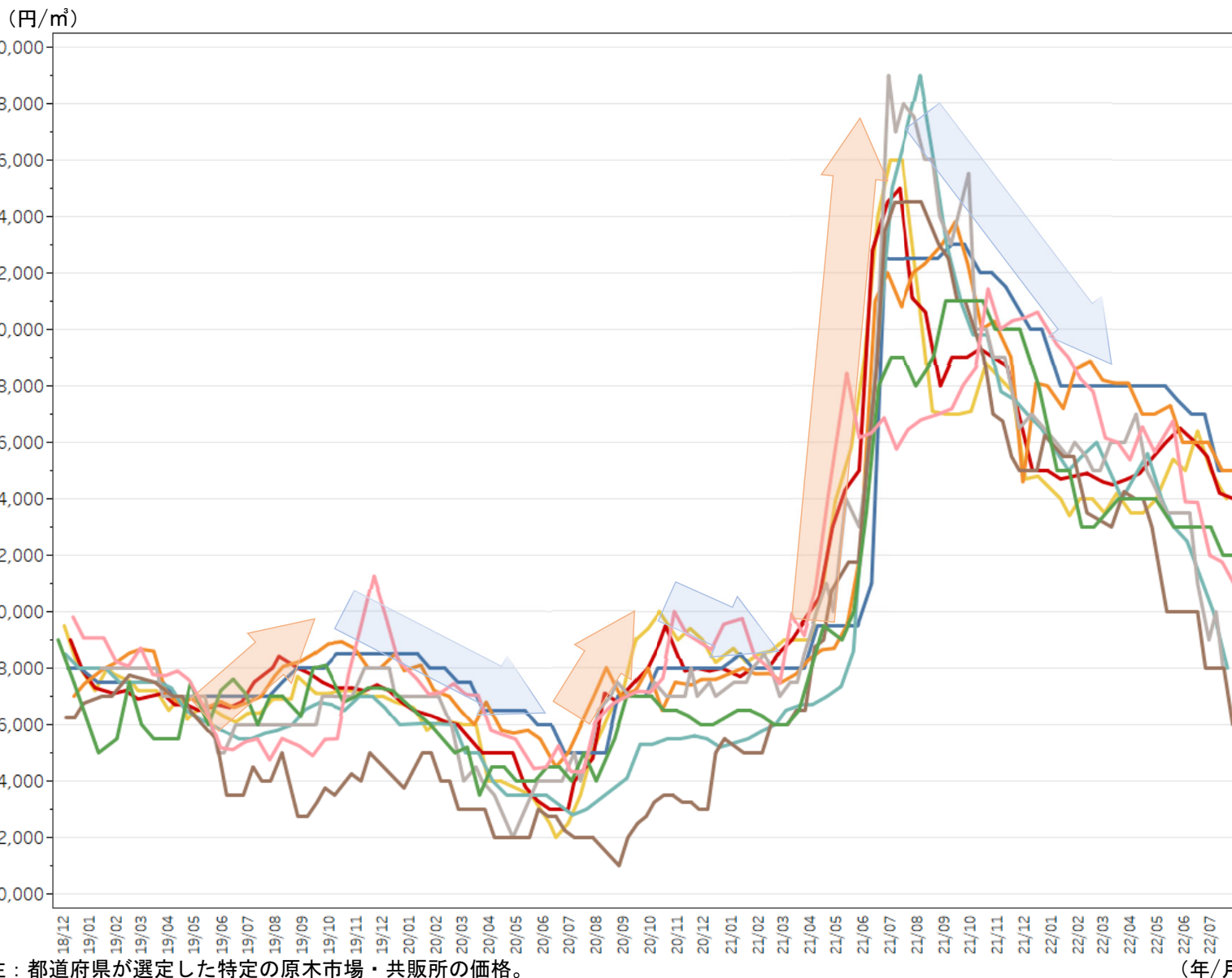
注1：北海道はカラマツ（工場着価格）。

注2：都道府県が選定した特定の原木市場・共販所の価格。

資料：林野庁木材産業課調べ

# イ ヒノキ(全国) 径24cm程度、長3.65~4.0m (2018年12月~)

- ヒノキにおいてもスギと同様に、2021年4月以降、価格が大きく上昇。その後下落傾向に転じているが、2021年3月以前と比較すると全般的に高い水準で推移。
- 直近のヒノキ原木価格は、16,000円~25,000円となっている。



(単位：円)

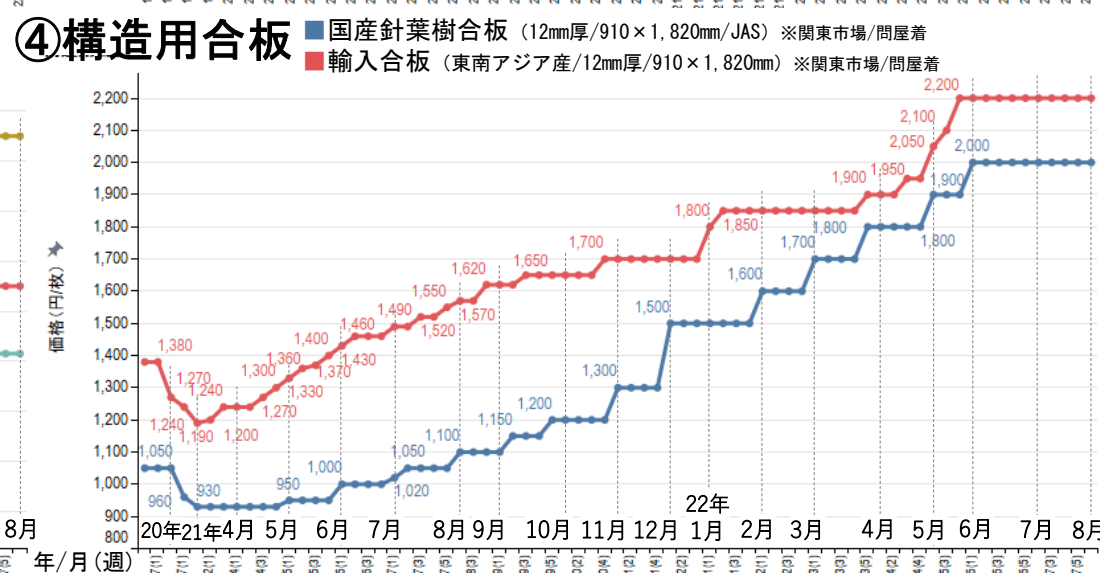
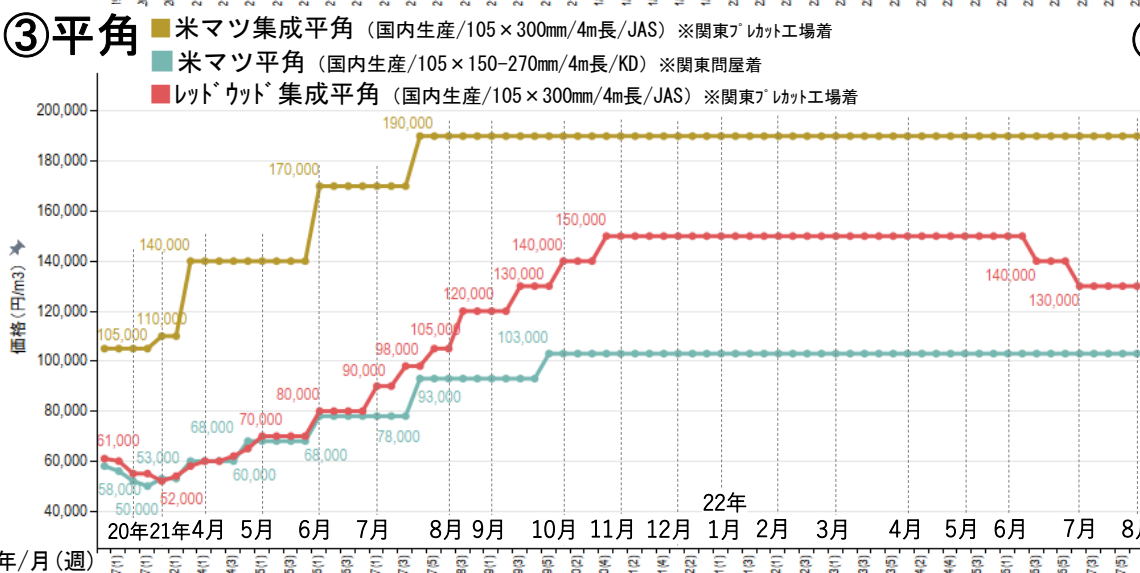
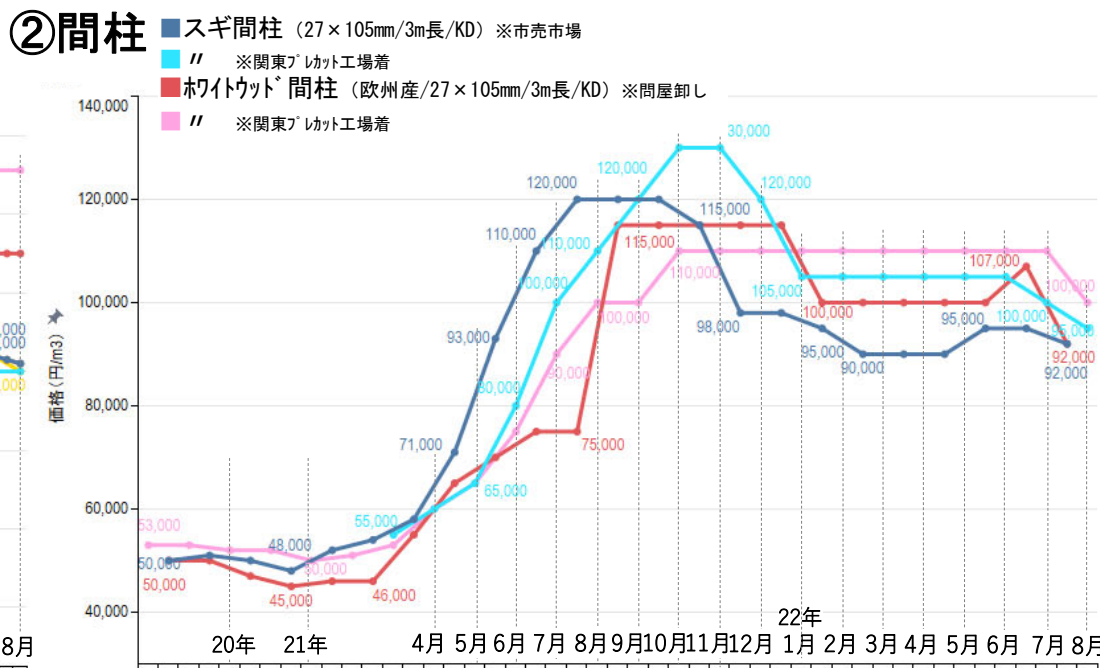
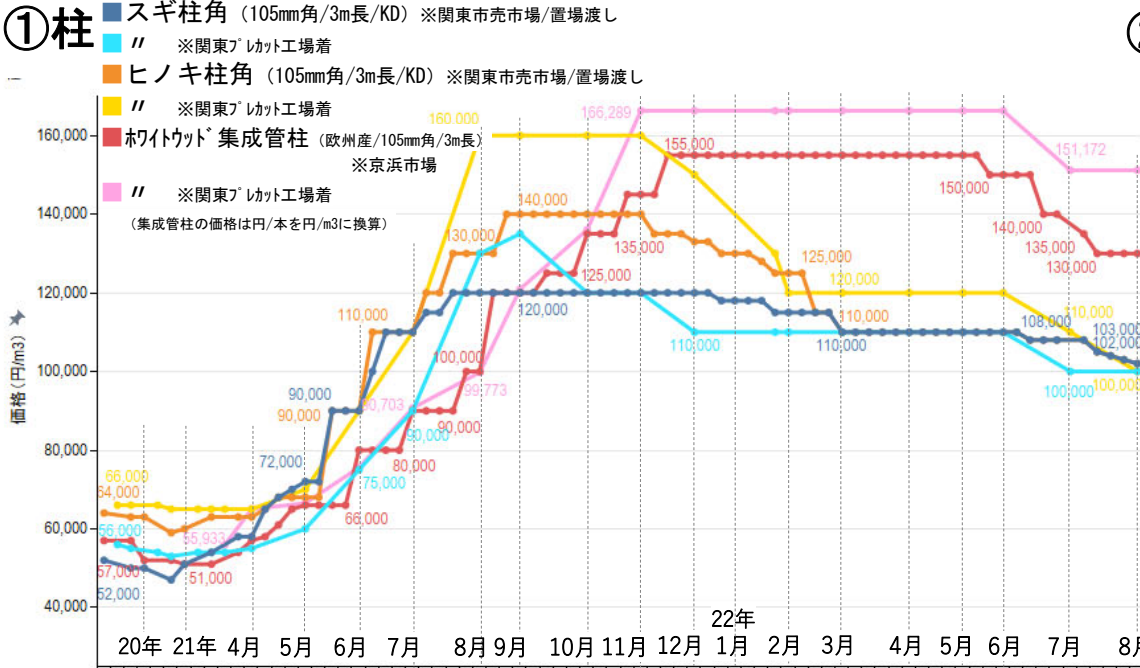
都道府県	2022年直近*	前年同期	前年同期比
栃木県	20,960	26,450	79%
静岡県	22,000	28,000	79%
兵庫県	16,000	34,500	46%
岡山県	18,000	38,000	47%
広島県	18,000	37,000	49%
愛媛県	25,000	32,000	78%
高知県	25,000	32,500	77%
熊本県	24,000	31,100	77%
大分県	24,000	36,000	67%

※各県7月の値を使用。

注：都道府県が選定した特定の原木市場・共販所の価格。  
資料：林野庁木材産業課調べ

## (2) 製品価格

- 令和3年(2021年)は、世界的な木材需要の高まり等により輸入材製品価格が高騰し、代替需要により国産材製品価格も上昇。令和4年(2022年)に入り需給は落ち着きつつあるが、製材は高値圏で推移、合板は上昇後高止まりで推移。



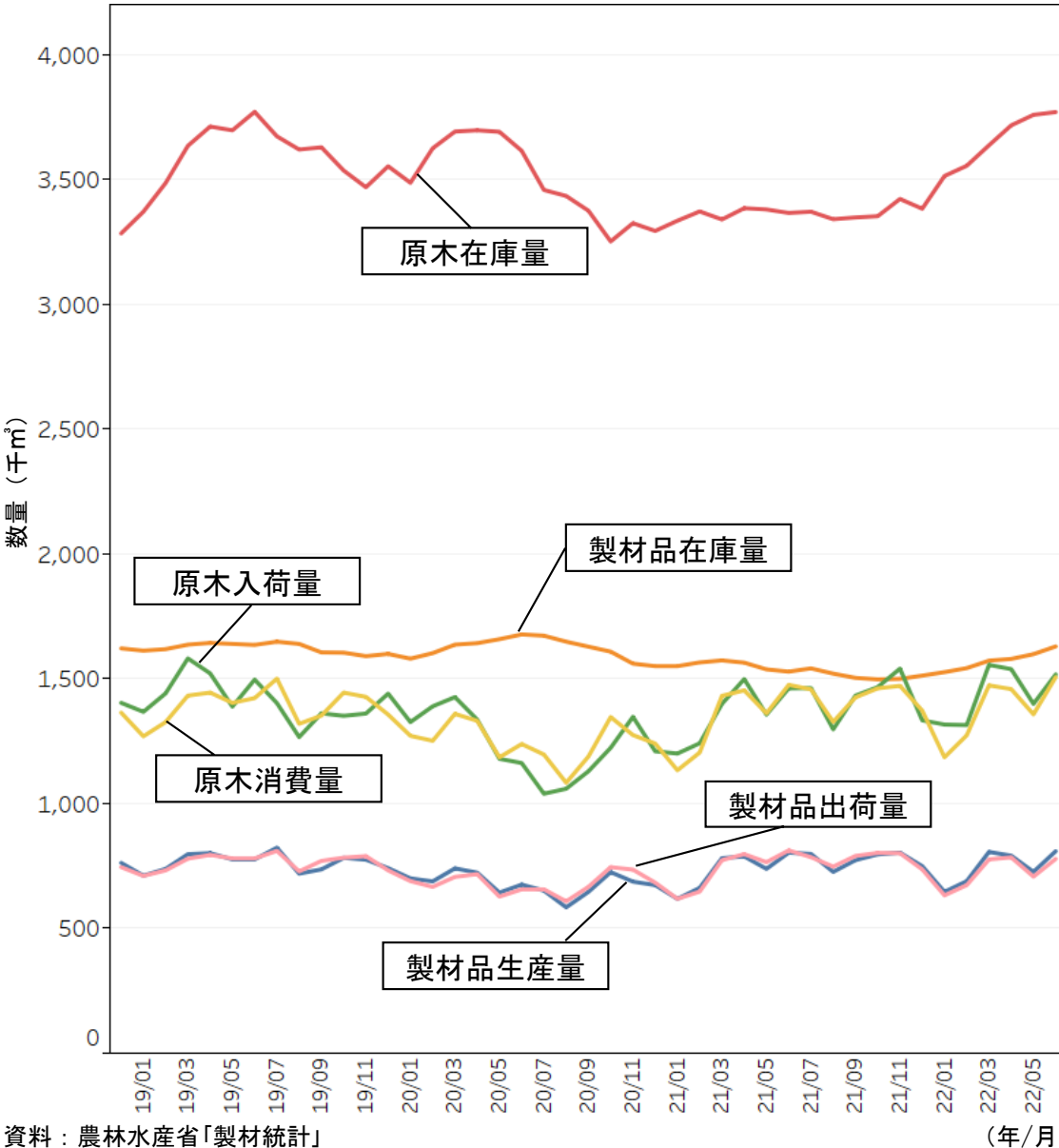
資料：①③④木材建材ウイクリー、①②日刊木材新聞



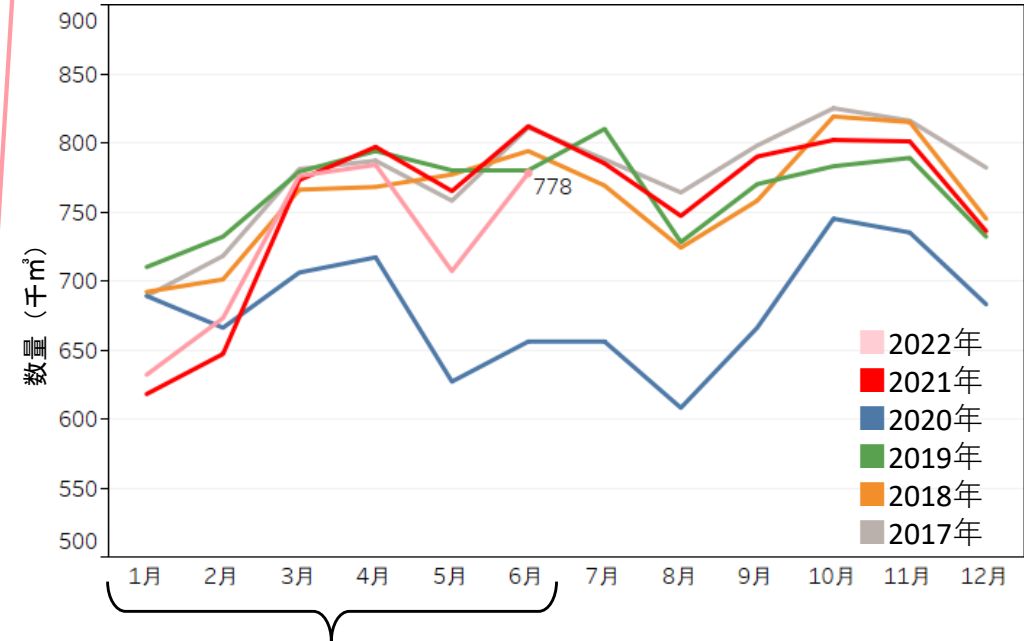
## 2 工場の原木等の入荷、製品の生産等の動向

### (1) 製材 (全国)

- 2022年1～6月の原木の入荷量は8,639千m<sup>3</sup> (2019年比98%)。
- 同様に製材品の出荷量は4,350千m<sup>3</sup> (2019年比95%)。



製材品出荷量の月別推移 (全国)

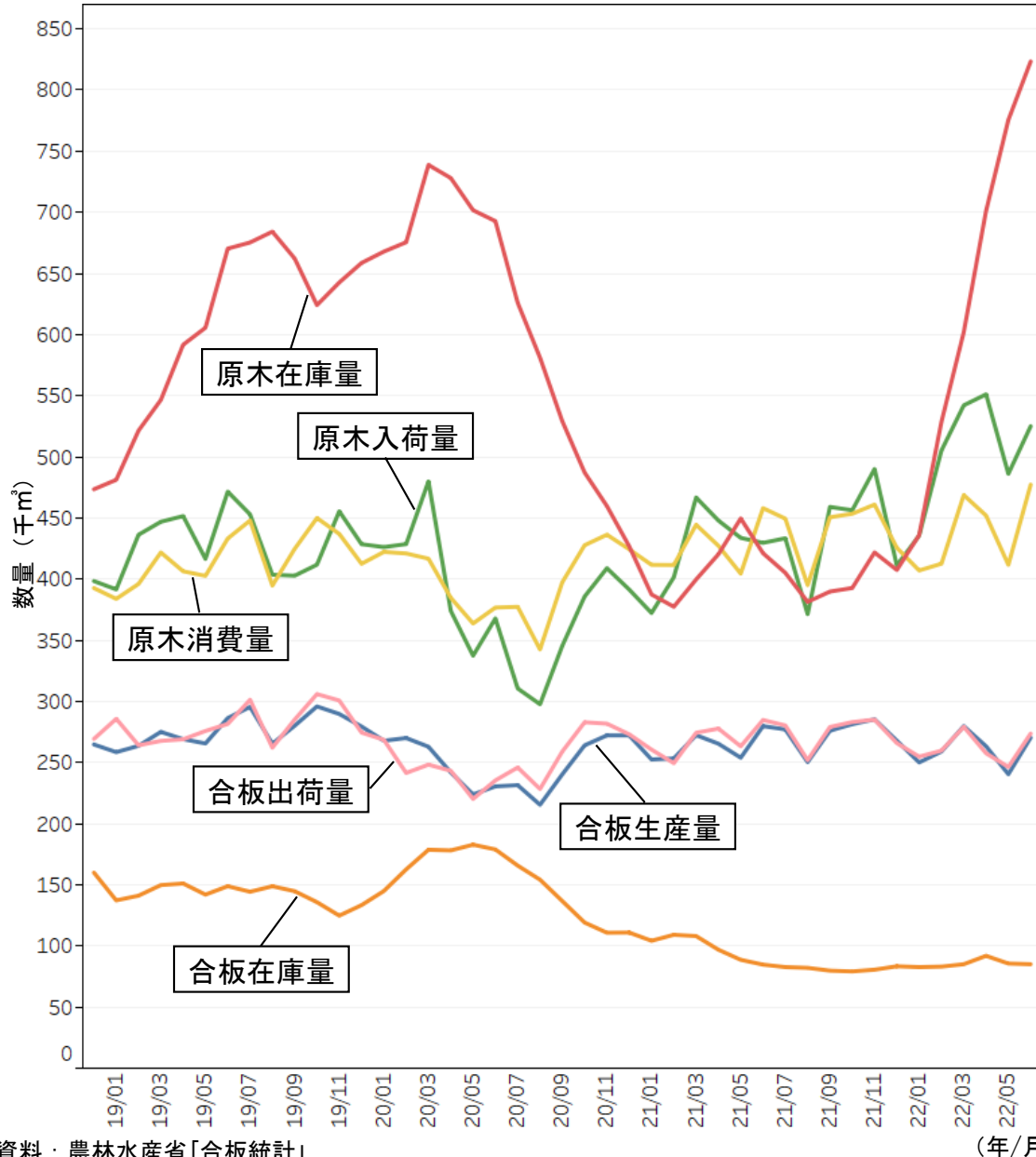


	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
1～6月原木入荷量合計(千m <sup>3</sup> )	8,423	8,455	8,794	7,818	8,155	8,639
2019年との比較*	96%	96%	—	89%	93%	98%
1～6月出荷量合計(千m <sup>3</sup> )	4,544	4,498	4,575	4,061	4,412	4,350
2019年との比較*	99%	98%	—	89%	96%	95%

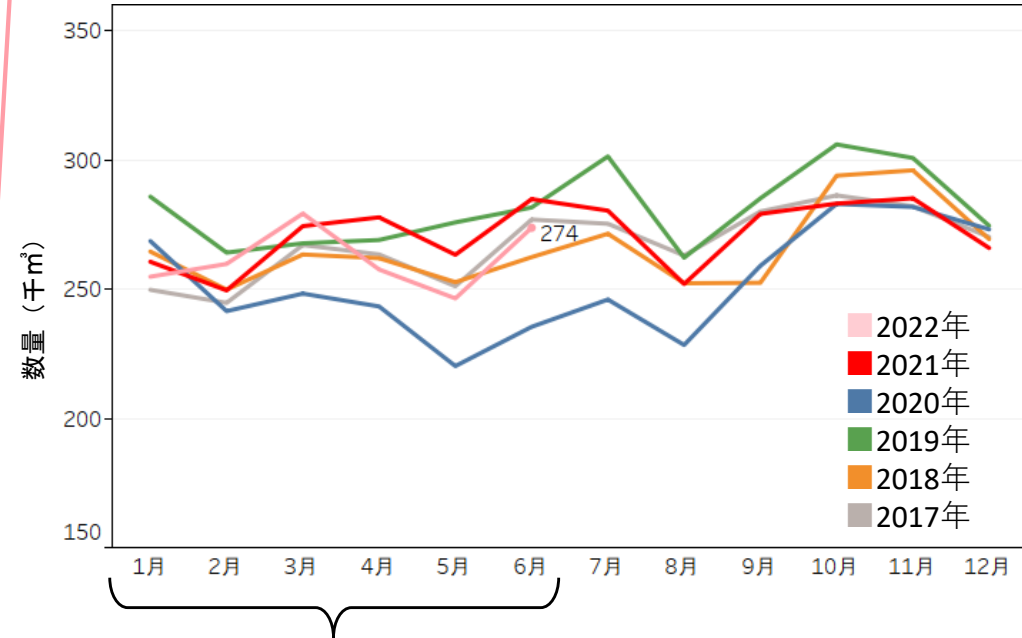
\*コロナ禍前の2019年の数値を100%とした比較

## (2) 合板 (全国)

- 2022年1～6月の原木の入荷量は3,045千 $m^3$  (2019年比116%)。現在の原木在庫量は高い水準となっている。
- 同様に合板の出荷量は1,571千 $m^3$  (2019年比96%)。合板在庫量は2020年5月から減少傾向に転じ、現在は低い水準で推移。



### 合板出荷量の月別推移 (全国)

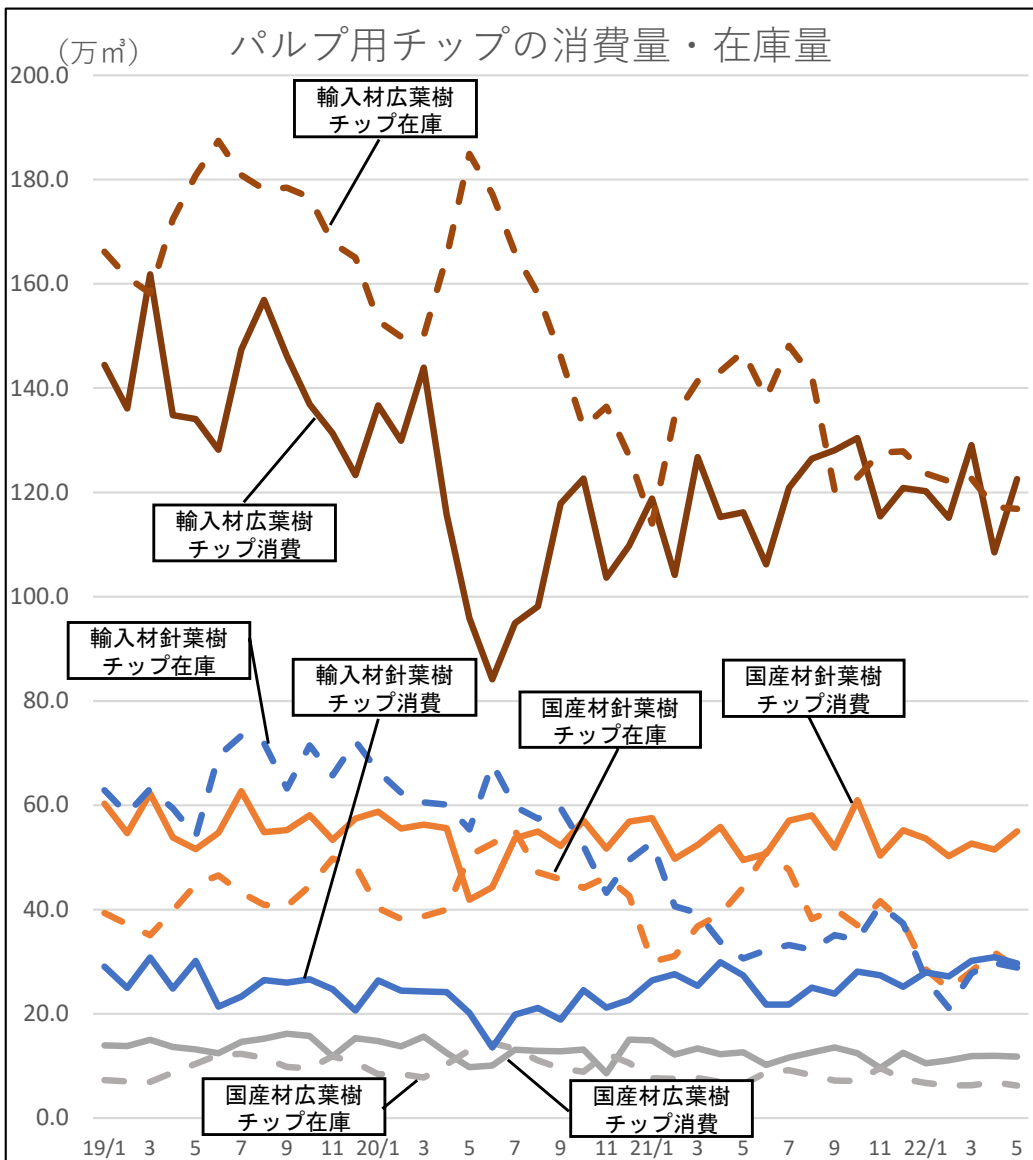


	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
1～6月原木入荷量合計 (千 $m^3$ )	2,266	2,505	2,614	2,414	2,552	3,045
2019年との比較*	87%	96%	—	92%	98%	116%
1～6月出荷量合計 (千 $m^3$ )	1,553	1,555	1,644	1,457	1,610	1,571
2019年との比較*	94%	95%	—	89%	98%	96%

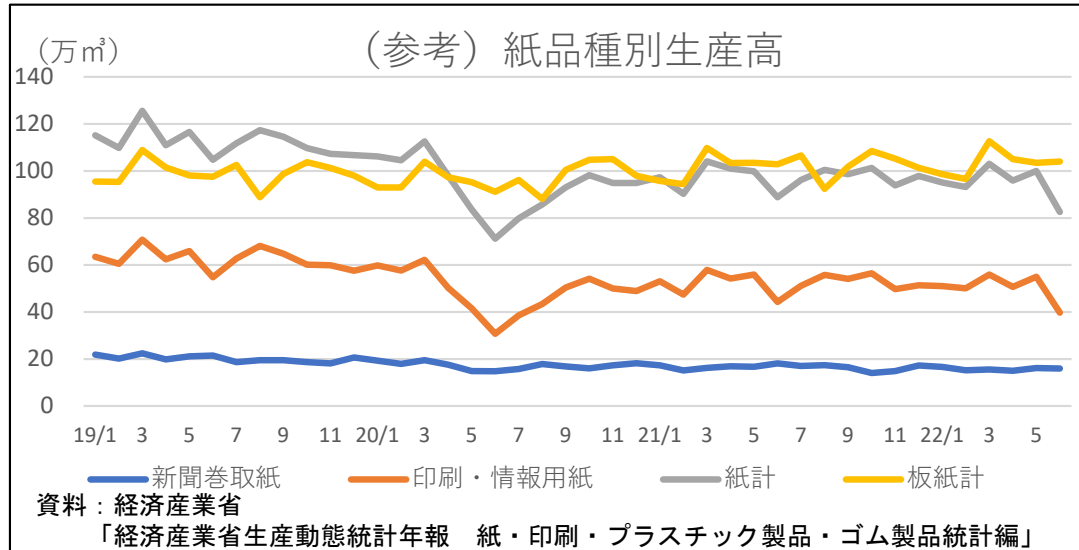
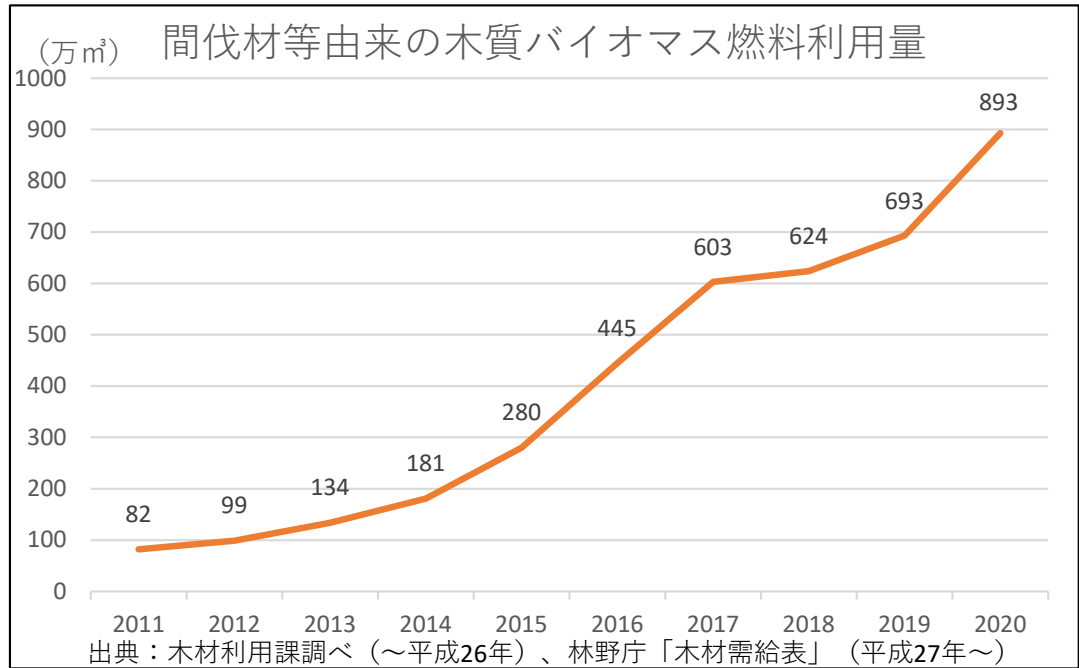
※コロナ禍前の2019年の数値を100%とした比較

### (3) チップ (全国)

- パルプ用チップの消費について、輸入広葉樹チップの消費量は2020年4月から6月まで激減した。その後は回復傾向。国産針葉樹チップの消費量は、2020年5月に大きく減少したが、その後回復した。
- 木質バイオマス発電向け燃料は、一貫して増加傾向が続いている。
- 紙の生産高は2020年6月に減少したが、その後一定程度回復している。



資料：経済産業省「経済産業省生産動態統計年報 紙・印刷・プラスチック製品・ゴム製品統計編」

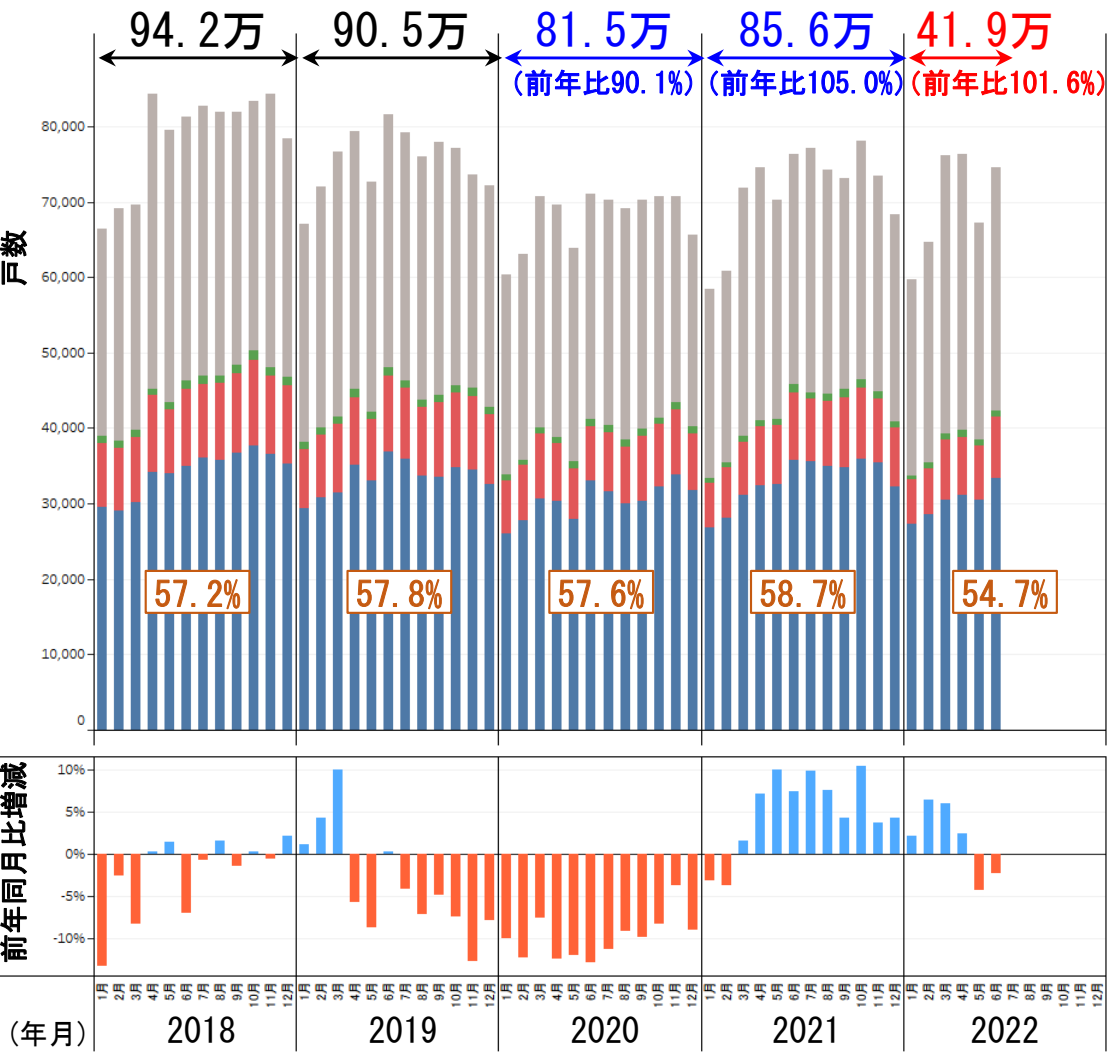




### 3 住宅着工戸数の動向（2018年1月～2022年6月）

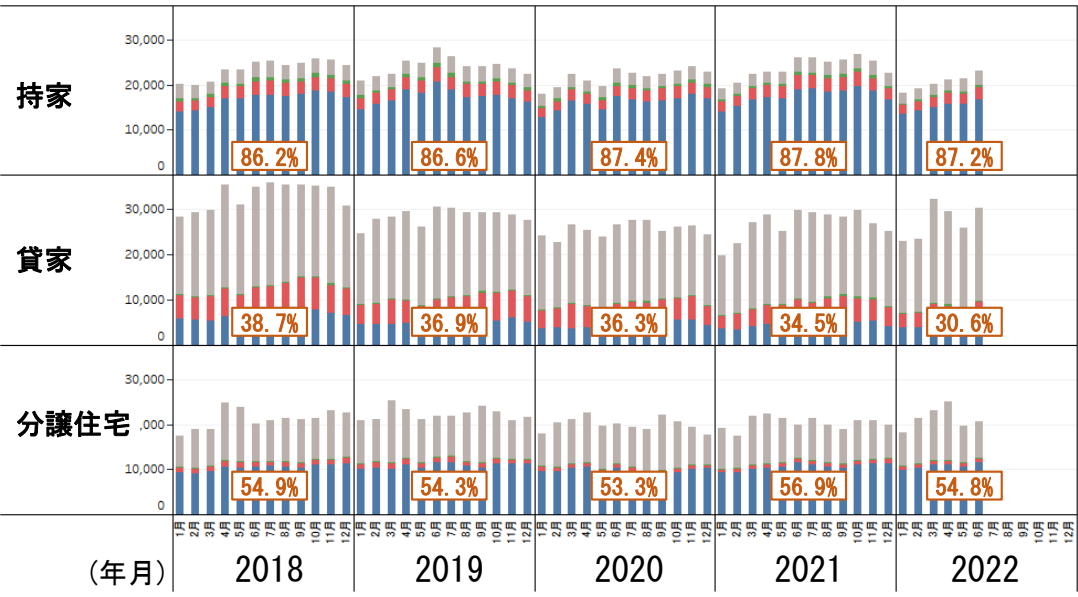
- 2021年の新設住宅着工戸数は、85.6万戸（前年比105.0%）、このうち木造住宅は50.2万戸（同107.0%）となり、2020年からは増加したが、新型コロナウイルス感染症拡大前の2019年の水準は下回った。
- 2022年1～6月の新設住宅着工戸数は、41.9万戸（前年同期比101.6%）、このうち木造住宅は22.9万戸（同97.0%）。

新設住宅着工戸数の推移



構造別の着工戸数	2022年 1～6月	前年 同期	前年 同期比	前々年 同期	前々年 同期比
合計	418,507	412,010	101.6%	398,683	105.0%
■非木造	189,673	176,192	107.7%	173,170	109.5%
木造	228,834	235,818	97.0%	225,513	101.5%
■木造プレハブ	4,514	4,751	95.0%	5,131	88.0%
■2×4	42,959	44,122	97.4%	44,741	96.0%
■在来軸組	181,361	186,945	97.0%	175,641	103.3%
□木造率	54.7%	57.2%		56.6%	

(参考) 利用関係別の着工戸数（ただし、「給与住宅」を除く。）

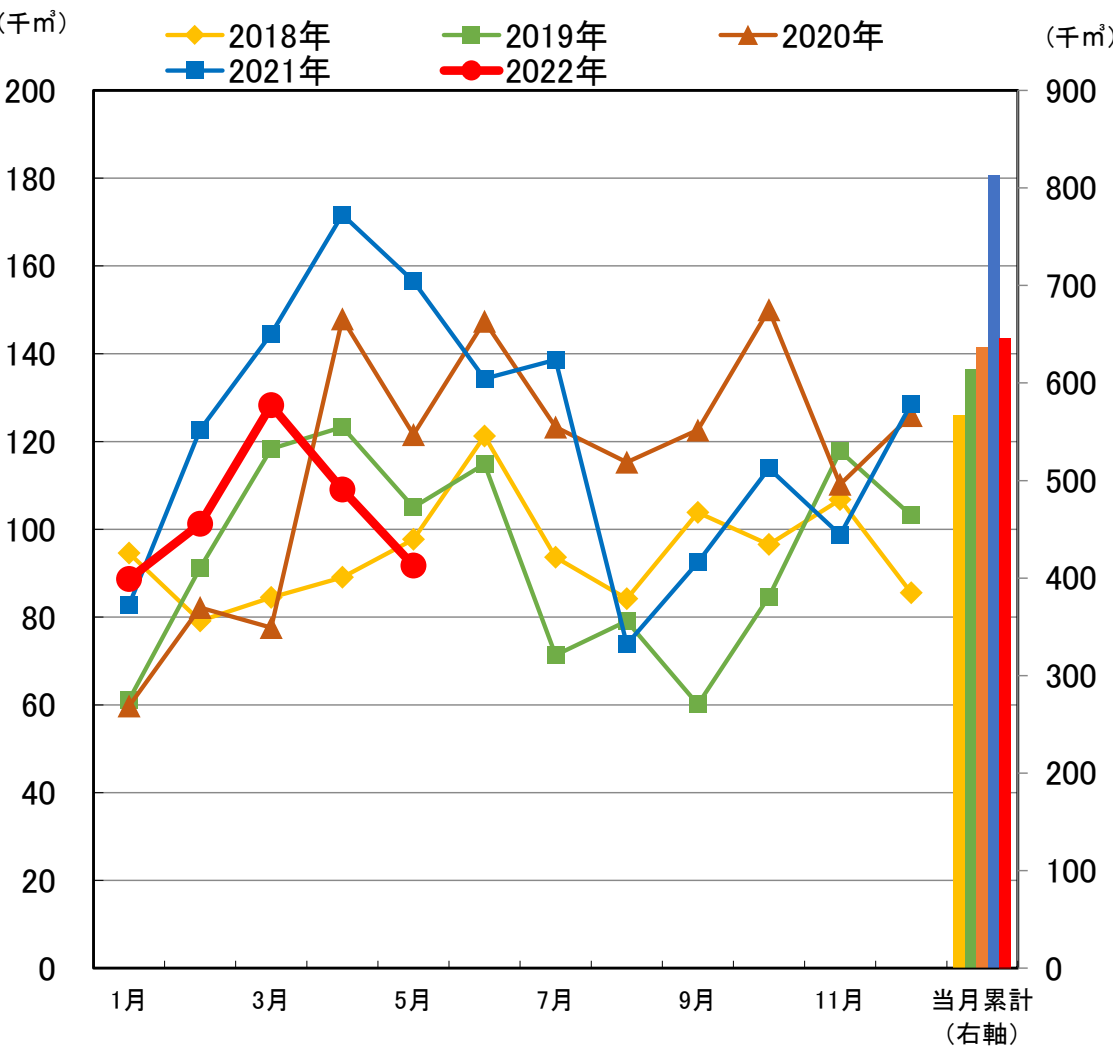


資料：国土交通省「住宅着工統計」

# 4 木材輸出量

令和4年6月の輸出量は丸太127千 $m^3$ （前年同月比95%）、製材15千 $m^3$ （前年同月比81%）、合板11千 $m^3$ （前年同月比76%）となった。

○丸太輸出量の推移（月別）



○木材輸出量の状況（累計：主な国別・品目別）

輸出先	単月 6月			累計 1~6月		
	主要品目内訳(千 $m^3$ ) 前年比(%)			主要品目内訳(千 $m^3$ ) 前年比(%)		
	丸太	製材	合板	丸太	製材	合板
中国	110 97%	5 106%	1 69%	533 79%	33 115%	4 95%
韓国	9 87%	1 68%	0 113%	64 95%	4 77%	0 71%
台湾	7 87%	2 155%	0 0%	44 87%	8 100%	0 0%
米国	0 —	3 42%	0 —	0 —	24 66%	0 114%
フィリピン	0 —	4 103%	11 77%	0 —	30 139%	62 97%
総計	127 95%	15 81%	11 76%	646 80%	103 99%	66 96%

○税関ごとの丸太輸出量

税関名	管轄※	合計(千 $m^3$ ) 1~6月	比率 1~6月
函館税関	北海道,青森,岩手,秋田	61.3	9.5%
東京税関	山形,群馬,埼玉,千葉,東京,新潟,山梨	1.7	0.3%
横浜税関	宮城,福島,茨城,栃木,千葉,神奈川	5.9	0.9%
名古屋税関	長野,岐阜,静岡,愛知,三重	11.6	1.8%
神戸税関	兵庫,鳥取,島根,岡山,広島,徳島,香川,愛媛,高知	8.0	1.2%
大阪税関	大阪,京都,和歌山,奈良,滋賀,福井,石川,富山	12.2	1.9%
門司税関	山口,福岡,佐賀,長崎,大分,宮崎	194.8	30.2%
長崎税関	福岡,佐賀,長崎,熊本,鹿児島	350.6	54.3%
沖縄地区税関	沖縄	0.0	0.0%

資料：財務省易統計  
 ※貿易統計の第4403, 4407, 4412の一部類を集計  
 ※四捨五入により、数値が合わないことがある

※木材の集荷範囲とは対応していない